



1. 米山月間の由来

今年も米山月間がやってまいりました。国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間とは別に、日本独自の月間テーマとして、毎年10月は米山月間となっています。今回は改めて、その由来についてご紹介します。

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日～7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月では各

クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多い、など現実的な支障があったためです。そして何よりも、東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。当会の配布資料などを活用し、米山の理解促進へのご協力をお願いいたします。



2. 米山のルーツを訪ねる



9月24日から25日にかけて、第2790地区（千葉県）米山学友会主催で、「米山梅吉記念館探訪旅行」と題し、23人の学友・奨学生を含む27人が記念館を訪問しました。ほとんどの奨学生・学友にとって初めての記念館訪問で、梅吉翁の生涯、奉仕の精神に触れ、奨学生からは「米山奨学生になることができて光栄」、「平和な社会を築くために、米山梅吉のような人になりたい」といった声が多くあったとのこと。

また、2日目には東京へ戻り、サントリーホールにて「交響詩・古事記『一粒萬倍 A S E E D』五穀豊穰の物語」を観覧。「万物は一つに

つながっている」というテーマである物語を通じて、歴史の体験をしました。

同学友会副会長のグエン ビッグ フォンさん（2020-21/我孫子RC）は、「コロナ禍の影響でずっと活動が少なく、米山梅吉記念館も行ったことがなかったので、奨学生の皆さんと同じく新鮮な気持ちで参加しました。ロータリアンの方々と交流ができ、日本文化を勉強でき、新たな仲間もたくさんできました。米山奨学事業への理解、異文化理解について、より深まったと感じています。お世話になった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです」と、述べました。



ぶどう狩りを楽しむグエンさん(中央)と奨学生

3. 映像で体感する米山奨学事業

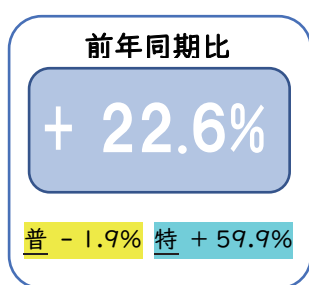
米山奨学会では、公式の YouTube チャンネルにて、米山に関する動画を順次更新しています。

今年、新たに3人の親善大使の自己紹介動画、そして2760地区の奨学生選考過程に密着した、「よねやまに魅せられてーロータリアンの想いー」を公開しました。引き続き、米山奨学事業について、文字や写真のみでなく映像でも皆さまにお届けできるように努めてまいります。例会やセミナーなどで、YouTube を活用し



て、気軽に上映していただくことが可能です。また、ご希望があれば映像をDVDとしてお送りさせていただきます。希望される方は当会の広報までご連絡ください。

4. 寄付金速報 一年に1度の米山月間



9月までの寄付金は、前年同期と比べて22.6%増（普通寄付金:1.9%減、特別寄付金:59.9%増）、約7,760万円の増加となりました。今月の特別

寄付金の大幅増は、267号で紹介した米山学友、周順圭さん（1962-63:東京西RC、1963-65&

66-68:東京世田谷RC）の約6,890万円のご寄付が当会に入金されたためです。皆さまの多額のご寄付とお気持ちに、改めて厚く御礼申し上げます。

また、東京城北RCの元会員、故飯島英夫氏のご遺志を継いで、令夫人の喜与子氏から昨年度いただいた1,000万円のご寄付に対し、9月30日、同クラブ例会にて、相澤光春副理事長から喜代子氏へ感謝状と特製盾を贈呈しました。

5. 夏のワークショップ in 浦項

8月27日、韓国米山学友会主催「夏のワークショップ in 浦項」が慶尚南道浦項市の浦項工科大学にて開催され、総勢16人が参加しました。

今回のワークショップは1泊2日の日程で、一般に立ち入ることができない大学内の放射光加速器等の研究所を訪問し、施設内の見学をしました。同学友会のワークショップは、メンバ



ワークショップの合間にカフェで一息

一同士の親睦と新たな知識共有の場として、7年前から毎年2回ほど開催しています。また、同学友会では、2016年から在韓日本人留学生への奨学金支援も毎年行っています。

広報担当の金珉庭さん（2005-06/吹田西RC）は、「韓国で活躍している米山学友が研究、経済、情報などを共有できる学習の機会を提供するとともに、学友間の更なるコミュニケーションの場を設け、来韓した日本人留学生との密な交流を目指しています。今回は日本人留学生の参加は1人でしたが、今後は多くの日本人留学生が参加し、情報共有や相談ができ、勉学はもちろん、韓国での生活の活力になるような場にしていきたいです。私たち学友会は、さらに交流の輪を広げ、絆を深めることを第一に、さまざまな活動をしてまいります」と述べました。なお、韓国学友会は11月26日に総会を開催予定です。